

F.NOVEL-8

我輩は「線」である VII



我輩は「線」である。

大きなものと小さなもの、どちらにより価値があるのか。

答えは、大きなものである。違和感を覚えたなら、それは大小を体積や背丈だけで考えているのである。我輩が言いたいのは、相対的な関係性の大きさである。

例えば画家にとっては、空を飛ぶ飛行機よりも、空を描ける小さな筆が。親にとっては、気の合う大人よりも、少々わがままで子どもが、より大きな存在なのである。

誰かにとって小さなものは、誰かにとって大きなものであり、逆も然り。そうそう簡単に決めつけられるものではないのだ。

翻って「スマートフォンの中にある我輩」は大きいのだろうか。小さいのだろうか。貴方に一度、問うてみたい。

お知らせ

(株)フジクラ健康社会研究所を設立 ～健康経営を次のステージへ導きます～



2013年より本格的に活動を始めた当社健康経営は今年で7年目となりました。この間、体組成計や血圧計の導入とリアルタイムでのバイタルデータの見える化による従業員の意識変容、全社歩数イベントなどによる行動変容等、さまざまな施策に積極的に取り組んでまいりました。健康経営の第一ステージの目標として、従業員が、自らのからだの状態に少しでも興味や関心をもち、健康維持・増進への意識やリテラシーの向上を掲げるとすれば、ここには一定の成果をみることができました。一方で、健康にあまり興味がない従業員や、全国に点在するグループ会社の地域特性への配慮等、新たな課題もみえてきました。

そこで、第二ステージの健康経営として、従業員自身が持ち合わせている、それぞれの得意分野における健康づくりのさまざまな情報や経験などを気軽に共有し、あるいは従業員やグループ会社同士が相互的な関わりを持てるような新たな健康経営が実践されていくことを目標とし、フジクラ健康社会研究所 (Fujikura Social Health Research Institute Ltd.) を2019年4月に設立しました。

フジクラ健康社会研究所では、バイタルデータなどの見える化はもちろん、グループ各社の特徴ある施策の共有などでもできる現代的参加型プラットフォームを開発しています。また、グループ各社への健康経営コンサルティングも積極的に行い、各社がそれぞれの地域における健康経営のリーディングカンパニーとなることで、地域単位からの健康社会の実現を目指します。ひいては、このような当社グループ全体の取り組みが、SDGsに適合した世界レベルでの健康社会の実現と発展に貢献してまいります。

